

# 東京都 インフルエンザ情報

東京都健康安全研究センター

今号(第 18 号)のトピックス

- 2019-20年シーズン(2019年36週/9月~2020年23週/6月)のまとめ  
患者報告数の週別推移、年齢階級別患者報告数、入院サーベイランス  
集団発生、ウイルス検出状況、ウイルスの遺伝子系統樹解析

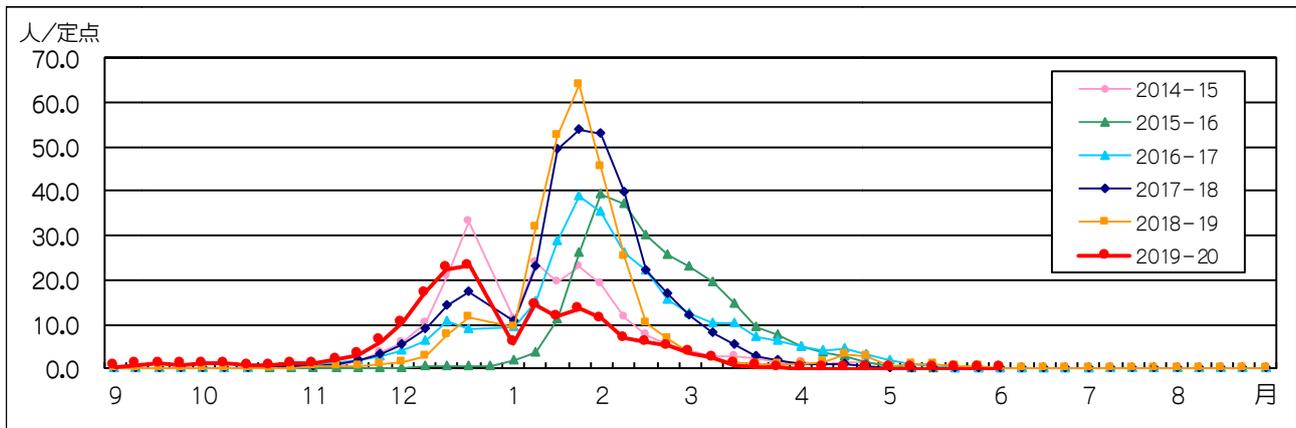


図1. インフルエンザ定点当たり患者報告数の推移(東京都)

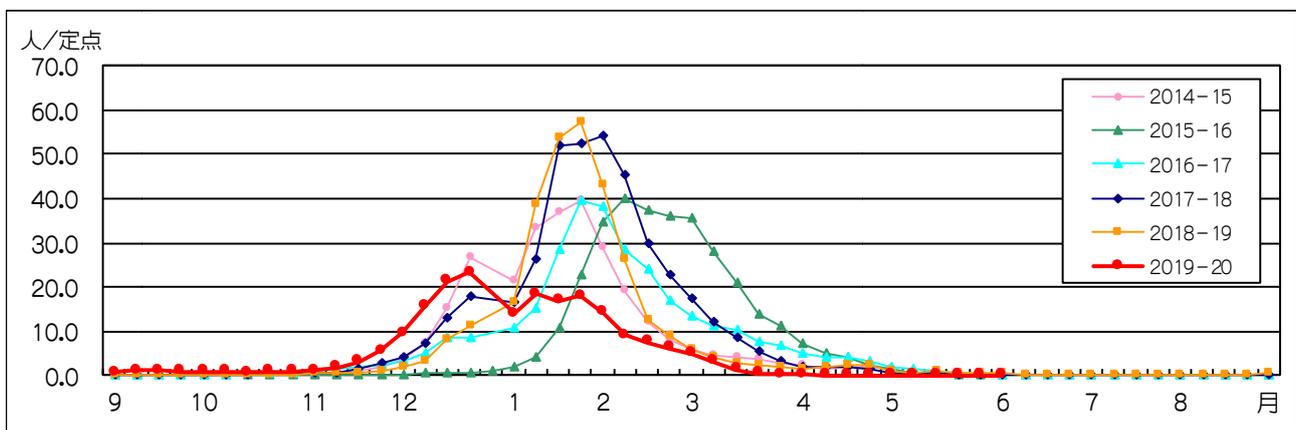


図2. インフルエンザ定点当たり患者報告数の推移(全国)

## 2019-20年シーズンのまとめ

### (1)患者発生状況

東京都における2019-20年シーズン(以下、今シーズン)は、38週(9月16日~22日)に流行の目安である定点当たり1人を超え、49週(12月2日~8日)に注意報レベルとなる定点当たり10人を超えました。52週(12

月23日~29日)には定点当たり23.19人になりました。その後、5週(1月27日~2月2日)までは定点当たり10人前後を推移した後、11週(3月9日~15日)には0.89人となり、ここ10年で初めて警報レベルにならずに

流行は終息しました(図 1、図 2、図 3)。

入院サーベイランスは、52 週に定点当たりの報告数が 4.2 人と、今シーズンの最高値となりました(先シーズンは 4 週に 8.6 人)。図

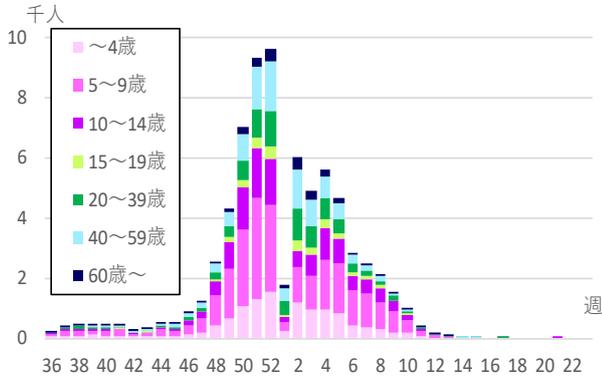


図 3. 年齢階級別患者報告数の推移(東京都)

4に入院サーベイランスの年齢階級別報告数の推移を示しました。15歳未満の占める割合は 44%、15~59歳は 14%、60歳以上は 42%でした。

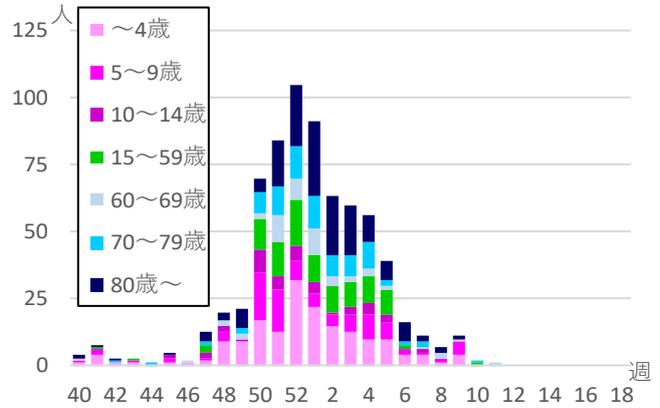


図 4. 入院サーベイランス 年齢別患者報告数

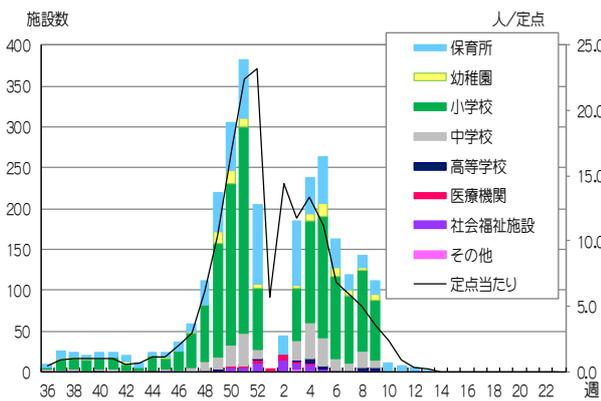


図 5. インフルエンザ様疾患による集団事例

インフルエンザ様疾患による集団発生事例の報告数は、51 週に 383 件(先シーズンは 4 週に 1,303 件)が今シーズン最多となりました。(図 5)。

今シーズンの事例数は、保育所 685 件(先シーズンは 1,421 件)、幼稚園 118 件(同 248 件)、小学校 1,610 件(同 1,800 件)、中学校 274 件(同 453 件)、高等学校 29 件(同 75 件)、医療機関 25 件(同 104 件)、社会福祉施設 65 件(同 436 件)、その他 5 件(同 15 件)、合計 2,811 件(同 4,552 件)でした。

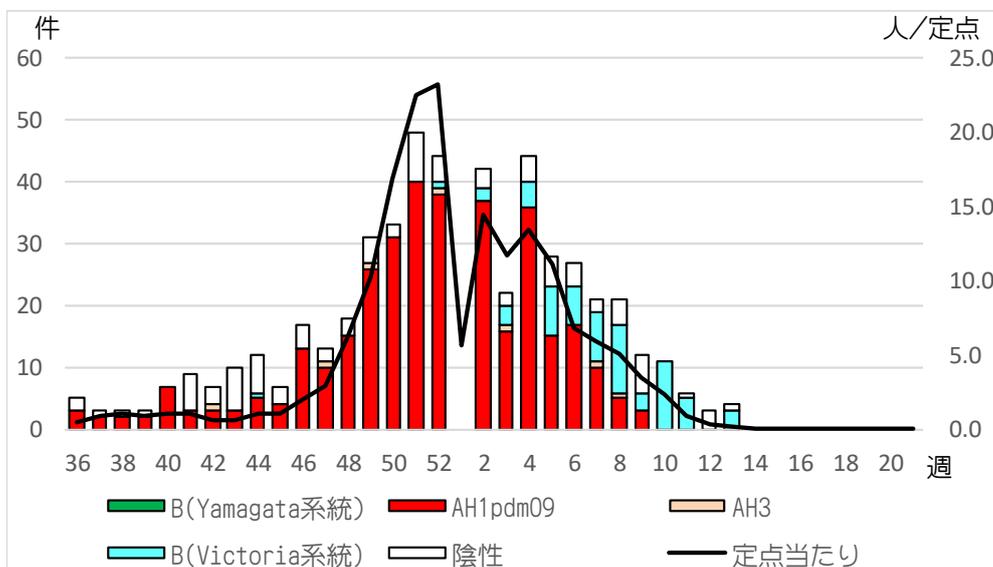


図 6. ウイルス検出状況

## (2) ウイルス検出状況

定点医療機関から当センターに搬入された検体 511 件中 419 件からインフルエンザウイルスが検出されました。内訳は AH1pdm09 が 346 件、AH3 亜型が 7 件、B 型 Victoria 系統が 66 件、B 型 Yamagata 系統は検出されませんでした(図 6)。

## (3) 2019/2020 年シーズンに検出されたインフルエンザウイルスのヘマグルチニン(HA)遺伝子系統樹(東京都)

今シーズンは AH1pdm09 が多くを占め、他に AH3 亜型及び B 型 Victoria 系統のウイルスが検出されました。検出されたインフルエンザウイルスについて HA 遺伝子の分子系統樹解析及び赤血球凝集阻止(HI)試験

を行い、ワクチン株との比較を行いました。

AH1pdm09 の流行株は、ワクチン株と同じクレードに属しており(図 7)、HI 試験ではワクチン株と同等の反応性がみられました。

AH3 亜型では、流行株はワクチン株と異なるクレードに属していました(図 8)。また、分離されたウイルスの赤血球凝集価が低く、HI 試験が実施できませんでした。

B 型流行株は Victoria 系統の株で、Yamagata 系統の株は検出されませんでした。系統樹上でワクチン株を含むクレード(2 アミノ酸欠損)とは異なる 3 アミノ酸欠損のクレードに属しましたが(図 9)、HI 試験ではワクチン株と同等の反応性がみられました。

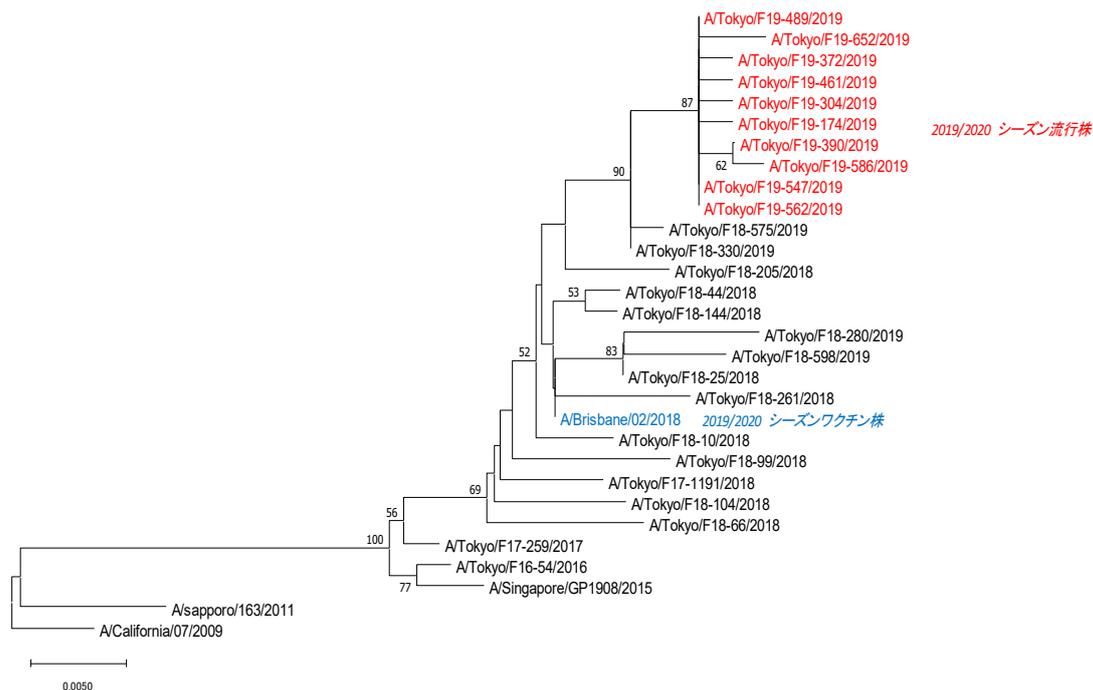


図 7. 東京都で検出された AH1pdm09 インフルエンザウイルス HA 遺伝子の分子系統樹

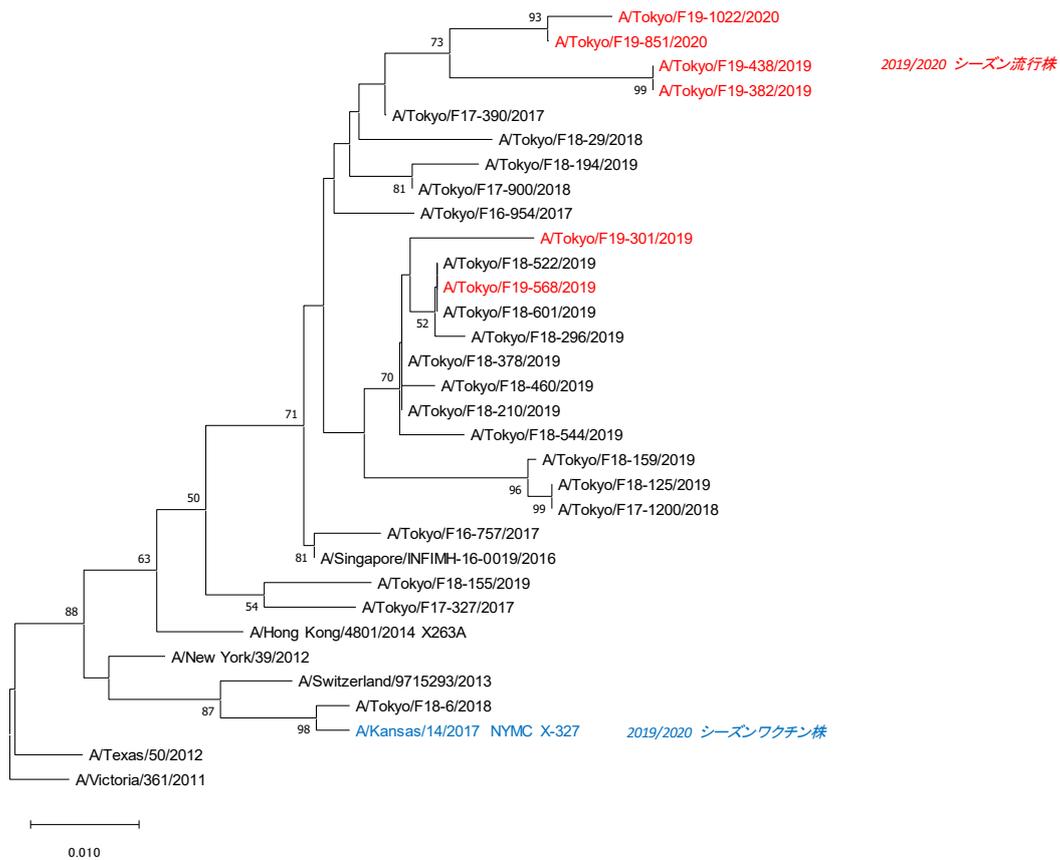


図 8. 東京都で検出された AH3 亜型インフルエンザウイルス HA 遺伝子の分子系統樹

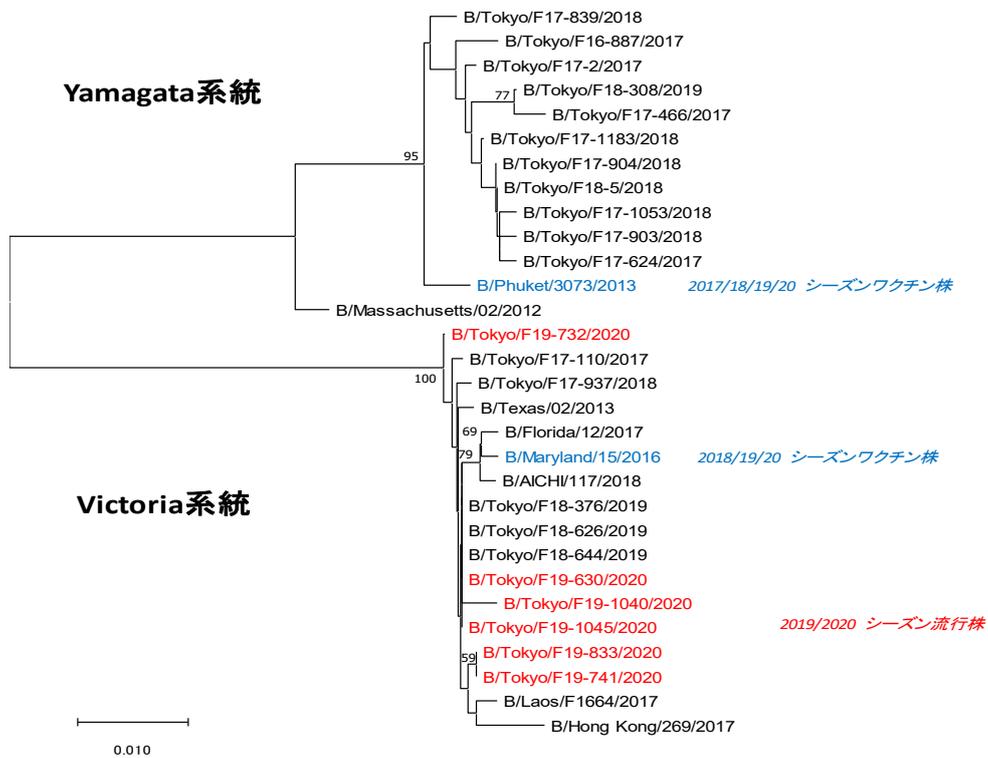


図 9. 東京都で検出された B 型インフルエンザウイルス HA 遺伝子の分子系統樹